



戦争をさせない
1000人委員会
Anti-War Committee of 1000

信州ニュース

戦争をさせない1000人委員会・信州 2015年2月25日 第18号

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館

電話 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641 E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp

HP <http://sensowosasenaishinshu.jimdo.com/>  https://twitter.com/1000_shinshu

 <https://www.facebook.com/sensousasenaishinshu>

80人が参加 「1000人委員会・さく」が結成総会

おりしも旧日本軍が米国・ハワイの真珠湾を攻撃し、日米が開戦した日、昨年12月8日に「戦争をさせない1000人委員会・さく」結成総会が佐久市勤労者福祉センターで開かれました。新聞での事前告知を見て参加した市民も含めて約80人が集まり、安倍政権による集団的自衛権の行使容認と自衛隊の海外派兵に反対する意思を確認しました。



結成総会は、事務局から大塚博人さんが開会あいさつ。

続いて、又坂常人・信大特任教授（信州呼びかけ人）が「自衛隊の海外武力行使と憲法9条」と題して記念講演。又坂さんは「憲法9条は世界に誇りうる条文だ。特に戦力不保持と国の交戦権を認めないとする9条2項は世界的にも珍しく重要だ。これを変えていこうとする現実的な危機が迫っている」「安倍政権は米軍とともに日本を防衛すると言っている。日米安保条約では、第6条で米軍が日本国内に基地を持つことを認めている。しかし、在日米軍は日本を守るために存在するのではなく、米国の世界戦略上の判断から必要な基地を日本にしているだけだ」「安倍政権は7月の閣議決定で従来の個別的自衛権と集団的自衛権というカテゴリーをなくし、『我が国と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生』した場合にも自衛権を発動できるとした」「自衛隊による米軍や多国籍軍への『後方支援』も“戦闘地域”と“非戦闘地域”



開会あいさつする
大塚博人さん



講演する又坂常人さん
（信大特任教授）



設立構想を提案する
清水清利さん



呼びかけ人スピーチ
する佐々木都さん

という区分けをなくし、“現に戦闘が行われていない地域”と、より戦闘現場に近い地域でも可能とした。前線への燃料補給や物品の輸送などは、国際法上、兵站支援であり戦闘行為と一体のものとしてされている。今までとは全く質が違う後方支援という武力行使と一体化した活動に自衛隊が参加することとなる」「安倍政権が本気で自衛隊の海外派遣を日常化したいのなら、憲法解釈の変更という姑息な手段ではなく、堂々と憲法改正で国民に問うべきだ」などと述べられました。

1000人委員会・さくの設定構想について事務局の清水清利さんが提案。賛同者・賛同団体の募集や署名活動など活動方針について参加者全員で確認しました。

呼びかけ人を代表して佐々木都さん（うすだ憲法9条の会）がスピーチ。佐々木さんは『名誉の戦死』という詩を読み上げ、「何事もなく暮らしていける平和な世の中のために、戦争はいけないと言いつけたい」と強調しました。

総会では最後に結成アピールが提案され参加者の拍手で確認しました。

「戦争をさせない1000人委員会・さく」呼びかけ人

2014年12月8日現在（敬称略）

井出正一（県日中友好協会会長）、佐々木都（うすだ憲法9条の会）、色平哲郎（医師）、神津武士（第二代佐久市長）、斎藤洋一（歴史研究者）、西村佳壽子（元町議）、星野和彦（演出・プロデューサー）、町田清（弁護士）、茂木祐司（御代田町長）

1000人委員会・須高も発足総会 市民70人が参加

総選挙結果は集団的自衛権の行使容認を信任したわけではない

「戦争をさせない1000人委員会・須高」の発足総会が昨年12月16日、須坂市商工会議所で開かれ、市民や関係団体からおよそ70人が参加しました。

集会では12月14日投票の衆議院選により、再び自公で3分の2を占める国会情勢となり、参議院で法案が否決をされたとしても衆議院での再可決が可能なラインを確保され、集団的自衛権行使に向けた関連法案の整備に加速がかかる状況であることの危機感が示されました。しかし、戦後最低の投票率や比例票での自民の得票は、全有権者に対しおよそ25%のみという結果は、自民のすすめる「戦争のできる国づくり」に国民の信



任を受けたわけではないことであり、1000人委員会が住民運動として安倍政権の暴走を食い止める役割を担おうと確認されました。

記念講演では、「自衛隊の海外における武力行使と憲法9条」と題し、信州大学特任教授で

1000人委員会・信州の呼びかけ人である又坂常人氏より講演を受け、巨大与党の暴走を食い止める知識として、憲法の基本原理を学びました。

集会の最後では、5人の1000人委員会・

須高の呼びかけ人より体験談や信条を交えながらの決意表明を受け、「戦争をさせない全国署名」の取り組みや、賛同人への結集を広げていくことを確認しました。

■大人の理論を身に付け、「壊憲」にしっかり反論を—又坂常人・信大特任教授の講演

記念講演を行った又坂氏は、「憲法というルールがなぜあるのか、それは権力を拘束するためだ」と改めて立憲主義について強調、これに対し自民・安倍政権の憲法観が「国家のための国民づくり」であることを厳しく非難しました。

また、実力部隊である自衛隊のあり方についても、これまで裁判所は「合憲」との判断をしたことがない事実に触れ、「9条により武力活動が制限されてきた」と説明。しかし現実には、これまで自公政権の中で進められてきた自衛隊の海外派遣と「イラク特措法」などの法整備により、「非戦闘地」での給油活動など実質的に集団的自衛権と同じ行為をしている実態にあること、「周辺事態法」によって、極東アジアでの有事の際に日本がアメリカを支援することが定められていることを指摘し、「着々と（戦争参加の）準備が進められている」と危機感を表しました。さらに、7月に閣議決定された武力行使に関する新基準についても、「不確定概念であり、時の政府の裁量によってどのようにも解釈できる。歯止めにならない」と断じました。

近年、田母神俊雄氏のように「戦争ができる国の方が戦争に巻き込まれる確率は低くなる」との扇動が多くなっているが、それ自体とともに

に、そこにシンパシーを感じてしまう状況にもあります。一方、安倍政権の暴走への危機感も根強くあります。だからこそ「安倍的国家主義の行き着く先を冷静に認識し、憲法の基本原理

に立脚した『大人の反戦論』を展開していくことで、戦争のできる国づくりの包囲を強めよう」と訴えられた。

また、状況は加速度的に私たちの望む平和な社会とは逆行する方向に進められているが、「これを食い止めるのは『無関心の克服』であり、これまでそうした無関心層を作ってきた団塊の世代として、その責任を果たすつもりであらゆる機会を通じ訴え、やれることをしていく」と本人の決意も述べられました。



講演する又坂常人・信大特任教授

■呼びかけ人スピーチ

1000人委員会・須高の呼びかけ人を代表し5人から決意が述べられました。

●「手をつなぎ運動を進めよう」—桜井佐七（9条を守る会・県呼びかけ人）

暴走をストップさせるには我々一般市民が団結すること。これまでの同趣旨の活動を行ってきた。一緒に手を握り締め、運動を進めよう。

●「知・情・意」を駆使し平和の方向へ—坂巻隆男（医師）

人が動くためには「知・情・意」が必要。今日の講演で知を得た、そこにさらに「情」「意」として国民の苦しむ姿を見たくない、なんとかしたいという思いと意思を広げていきたい。そのため

に、憲法改悪の行き着く先である徴兵制の現実味を多くの人に知らせ危機感を共有していきたい。まさか自分がこうした時代に遭遇するとは思わなかったが、この時代に生きる者の使命として、目の前の事に一喜一憂せず、平和の方向にみんなで力を合わせよう。

●「この憲法は守っていかなくてはならない」—武井徳夫(須坂市勤労協)

国民学校4年の時、兄を戦争で亡くした。桐箱に収められた遺骨は石ころくらいしかなく、それを見た「うちの跡継ぎがこんなに小さくて困ったな」との父の言葉を聞き、戦争はいけない、と当時から感じている。中学の授業で現在の日本国憲法を教えてもらった時その基本的人権と平和、女性の参政権に深い感銘を受けた。郵便局へ就職し労働組合と出会いそこでまた、反戦・平和の運動に触れ活動してきた。「この憲法は守っていかなくてはならない」との決意を新たにし、運動を続けていく。

●「崇高な理想に向うことこそ大切」—山崎五十夫(前須坂市図書館長)

憲法を「押し付け」と言って批判する人がいるが、当時の国会で日本の中で議論されたうえで決められたことであり、押し付けではない。平和主義が「理想」だともいわれるが、憲法前文には「日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ」とある。崇高な理想に向かうことこそ大切だ。

●「差別と人権無視の戦争を許すな」—若林紀久雄(元人権擁護委員)

松代で生まれ、小学校2年の時に太平洋戦争が起こった。松代では終戦間際、大本営の建設が進められており、学校のグラウンドには軍隊が常駐し、穴掘りに朝鮮人労働者が駆り出され、劣悪な環境で働かされていたことを見てきた。最近、松代大本営の案内看板の「強制」がテープで隠されたが、あれは間違いなく強制だった。当時、地蔵峠を越えアメリカの爆撃機が飛んできたのを見たが、数とその大きさを間近にし「勝てない」と直感したが、それを言うと「国賊」となり言えなかった。結果は負けたがそれによって、戦争中は家の電燈の明かりを隠すために付けられたひさしが取り除かれ「世の中明るくなった」と喜んだ。

世界中見渡しても武力で平和が築かれたためしはない。一番の差別であり、人権無視の戦争を許してはならない。



桜井佐七さん



坂巻隆男さん



武井徳夫さん



山崎五十夫さん



若林紀久雄さん

戦争をさせない1000人委員会・須高呼びかけ人

2014年12月16日現在(敬称略)

唐沢彦三(前小布施町長)、桜井佐七(小布施9条の会/信州呼びかけ人)、坂巻隆男(医師/信州呼びかけ人)、内坂徹(医師/信州呼びかけ人)、若林紀久雄(元人権擁護委員)、山口長志(みどりの会)、山崎五十夫(前須坂市図書館長)、中島清志(円光寺住職)、武井徳夫(須坂市勤労協)、小森金吾(部落解放同盟)